

駒宮神社：御鉾の窟

古代日本では、岩や木などの自然物を神の住処として祀ることが多く、建物に神を祀るという考え方が広まったのは、その後のことです。駒宮神社では、本殿の裏手にある断崖が本来の参拝対象であったと考えられています。これらの崖は先史時代に海岸沿いにあったもので、現在では部分的に土壌で覆われていますが、波の浸食の痕跡を残しています。

この場所の数メートル下には、波と風によって岩に彫られた洞窟があり、祭祀に使われていたと考えられています。地元の言い伝えによると、この洞窟は神話上の日本の初代天皇である神武が、国を統一するための旅に出る前に、愛用していた鉾を納めた場所だと言われています。現在は伝説の武器の金属複製品が、洞窟の場所を示しています。